

『二六新報』関連年表

- 一八七〇年 『横浜毎日新聞』刊
- 一八七二年 『東京日日新聞』刊
- 一八九二年 『万朝報』刊
- 一八九三年 『二六新報』(第一次) 創刊
- (明治26)
- 一八九四年 甲午農民戦争
社長秋山定輔自身が朝鮮へわたり、日清両国の朝鮮への出兵の状況を現地から通信
日清戦争
資金難のため『二六新報』(第一次)廃刊
- 一八九五年 『二六新報』(第二次) 再刊
三井財閥攻撃の筆陣
自由人権(吉原娼妓綾衣の白廃業) 実践キヤンペーン
- 一九〇一年 第一回日本労働者大懇親会を向島にて開催、集会者二万人以上
発行部数一五万以上となる
- 一九〇二年 宮崎滔天「三十三年の夢」連載開始
第二回日本労働者大懇親会を計画するが桂内閣はこれを禁止
二六事件(秋山定輔、福田和五郎ら社員七名警視庁に拘引さる) おきる
- 一九〇四年 『二六新報』社暴漢に襲撃さる
当局の弾圧いよいよ激しくなる
『東京二六新報』と改題
- 一九〇五年 ホーツマス講話条約反対の第一線に立つ
- 一九〇九年 三度目の『二六新報』に改題(第三次)
- 一九一一年 秋田清、社長となる
- 一九一四年 七月、『二六新報』と改題
一月、『世界新聞』と改題
- 一九一八年 四度目の『二六新報』に改題となる(第四次)
- 一九二四年 矢野晋也、社長となる
- 一九四〇年 『二六新報』終刊